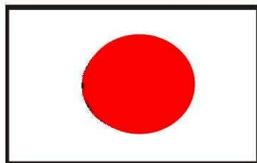


日中かわぐち

No.60

2020年2月11日

ホームページ
www.k-jcfa.com



川口市日本中国友好協会
埼玉県川口市西青木 2-4-20
メゾンエビハラ 302
048-253-2177

編集・制作 电脑倶楽部

川口市日本中国友好協会
—過去・現在・未来—
理事長 加藤 展裕

1. 創設者坂本隆太郎氏とその足跡

坂本先生は戦前、中国北安陸軍病院に勤務。一九四五年八月終戦となり、戦後中国鶴崗炭鉱で経理担当として留用された後、十三年後帰国して、川口に居住。一九七二年田中角栄元総理が訪中し日中友好条約が締結したことが契機となり、有志の人達と川口日中を創設、友好事業を開始した。中国との友好を強く念じ周囲の人々と友好事業を始めたが、言葉の必要性を身をもって感じ、中国語教室の開設を進めた。

同時に友好交流は長期にわたり継続することの必要性を認識し、この教室から後継者の育成に取り組み。特に事務局やスタッフは会員獲得と幹部育成を常に念頭に置き行動し、教室運営に携わる者、また中国人講師の先生方にもこの方針を十分認識していただく。単に言語の習得だけでなく「友好の戦士」という大きな

な任務を背負う自覚をもって切磋琢磨して欲しいと望んだ。(坂本先生の起草案より)

2. 川口市日中友好協会の事業紹介(令和元年)

- ◆ 中国語十教室の運営 (入門から上級クラスまで)
- ◆ 小学生親子の大使館訪問 第三十四回(令和元)は上青木南小学校 校長・スタッフを含め五十二名で訪問
- ◆ 中国語研修旅行 今回は「桂林」「陽朔」観光と大学生との交流 参加者十一名と広西省桂林師範大学日本語学部の学生五名と交流会を実施



中国語研修旅行 桂林

◆ 中国映画無料鑑賞会 スキップシティNHKビ

ジュアルホール4F 「北京フアミリー」と短編「草原の誘惑」上映 来場者 八十名 次年度要検討

◆ 中国語スピーチコンテスト (県日中主催)

川口日中は二十一名出場 応援来場者約十名 入賞は団体部門の努力賞のみであった 出場、練習は必ず将来の糧となるので、加油



県日中スピーチコンテスト

◆ 国内研修親睦旅行

会員間の親睦を兼ね今回は日光東照宮参観、武者行列見学、湯の湖畔泊

◆ 日本語教室

毎週土曜日九時三十分～十一時三十分協会事務所 再開三年目 中国、ベトナム、タイ、トルコ

人他参加 ◆ 漢語角(ハンユウジャオ) 月末日曜日九時三十分～十一時三十分 協会事務所 気軽に日本語と中国語で楽しく会話 参加歓迎

◆ ボランティア見本市

十月二十日リリアパーク ◆ 芝園団地文化祭 十一月九日

◆ 第四回法人会祭り

ふれあいフェス十一月十日 スキップシティ

何れも活動の写真を展示及び「あなたの名前を中国語で」すべて大好評

3. 日中の将来について

日本と中国の関係は「一衣帯水」。言い換えると引越しのできない隣国であると言われていて。日中両国は平和発展の道を歩めば両国がWin・Winの関係になるという根本的な関係になるはずである。日中は「和すればともに利し、戦えばともに傷つく」と言われ、日中間には政治的に多少の矛盾や意見の相違があってもこれは避けがたいことと思われる。

友好国としては相手国の立場に着眼し、合意事項、

入門B夜クラスには小学生と中学生の姉妹が入りました。お姉さんの影響で中国語に興味を持ったということとです。今後が楽しみです。受講生十五名のうち男性は高校一年生一人です。



第42期入門Bクラス開講式

受講動機は「川口市は中国人も多く中国人の友達ができた」とか「近所に中国料理店が多く中国語で注文してみたい」等。以前のよう「中国に工場があるので中国語の勉強を始めた」というような仕事からみの受講生はいません。そのため楽しい教室作りを念頭に一年間受講生が欠けることなく幹事として教室を運営してきました。そして先生と連携してスムーズに授業が進められるよう心掛けています。

五月十八日、十九日
懇親会旅行
日光千人武者行列と
湯元温泉
前田 稔夫

五月十八日朝七時半西川口駅よりバスで出発、千人武者行列とタイミングがピッタリ合い、武者行列を椅子席で鑑賞できました。



武者行列

三十分にもわたる古式豊かな行列の終了後、黒門前で待ち合わせたガイドさんの「堂者引き」と合流。東照宮の入り口だけですがガイド付きで拝観しました。今回は「おおるり山荘」のバスが観光サービスをしていないということで、日光市内のバスを湯元温泉までチャーター、近くの日光カス

テラ店でバスを待ちながら湯葉料理を賞味して日光気分を味わいました。いろは坂経由、立木観音を拝観、ここも寺僧たちの案内付きで内部参観、寺内に面白い土産が二、三ありました。



鳥居から陽明門

もう温泉は目と鼻の先三十分で湯の湖の湖畔ホテル「おおるり山荘」着。一時間の休憩後食事。静かな湖畔の宿で過ごしました。一般の学校とは違って授業はクラス単位で進められ、他のクラス間との交流がほとんどありません。このような協会主催、教室主催の行事には積極的に参加して他のクラスとの交流を増やしてください。安く中国語を勉強できる環境を維持するためスタッフ一同がんばっています。

懇親会二日目、朝九時ホテルを出発、華厳の滝へ。エレベーターで下まで降りて滝の観賞。華厳の滝で駐車場を提供してくれた食堂でバス運転手を交え全員でコーヒーをいただき感謝の意を表しました。



華厳の滝 観瀑台にて

おおるり指定食堂「表参道」で、お定まりの帰りの昼食後、直帰。西川口着三時ごろでしたが、早めのお開きでした。以上日光堪能すばらしい懇親会でした（自画自賛）。

五月二十五日
川口漢語角一周年を迎えて

林 芳男

「実際に川口で生活している人達との交流がしたい」

「こんなに沢山の中国人がいてのになぜ交流ができないのか？」様々な疑問が返ってきます。確かに川口駅や西川口駅に降りると、通り過ぎる人達から聞こえてくるのは中国語ばかりです。といつてもこの人達に突然日本人と交流をしませんか？と言っても無理な話で、目的を掲げて段取りを踏み進めていくということではいつになつたら交流ができるのか分かりません。



川口漢語角

そんな所に西池袋公園で「毎星期日漢語角」のニュースが目に入りました。規則もテーマもない自由な日中交流の場で、時間内の出入りも自由です。この記事を目にした瞬間「これだ！」と思い、早速西池袋公園に行きました。

決まりは自分の名前を書き、初めての参加者は、簡単に自己紹介をします。日本語でも中国語でも構いません。

その後は自分の好きな輪に参加して会話を楽しむだけです。会話も日本語、中国語どちらでも構いません。輪の中では初対面の人達ですが自然に会話が弾みます。



元祖日本僑報社 段躍中氏

それから時間が許せば顔を出しました。主催者の日本僑報社編集長の段躍中氏は川口市に住んでいたこともあり声を掛けて頂きました。

テーマも無くそこに行けば話ができる不思議さは、そこが自然と日中交流の場となっているからです。何とか川口でも「漢語角」が

できないかと考えるようになりまし。

「日本語を習いたい」という中国の青年が教室を訪ねて来ました。日本語教室は受講生がゼロとなり五年前から休講状態でした。この機会を生かしたいと早速受講生一名、講師二名の日本語教室を五年ぶりに再開しました。二年目からは川口市の日本語ボランティアネットワークに登録し一気に受講生が増えました。



川口漢語角風景

受講生の登録が二十名を超えた辺りから日本語教室の受講生と中国語教室受講生との交流を「川口漢語角」として月に一回程度開催したかどうか？と考えるようになりまし。中国語教室の受講生は中国人との生の会話ができ、日本語教

室の受講生も日本人と生きた会話ができると皆賛成してくれました。

「川口漢語角」の名前も段躍中氏の了解を頂き第一回を開催することとなりまし。基本は「政治、宗教の話はしない」以外はテーマも規則も設けず自由に会話を楽しむこととしました。

ただ初対面の人達がテーマも無しに本当に会話が弾むか心配しましたが、三十二名の参加者が楽しそうに会話をしているのを見て、池袋の「星期日漢語角」を思い出しました。

人と人、国籍は違っても会話を目的で集まった人達で自然と会話は弾みます。その後様々な事情で人の入れ替えが激しい中、何とか一年間続けることができました。

五月二十五日に段躍中を迎えて一周年記念をすることができました。これもスタッフや支えくれる人達のおかげです。最近は小学生も日本語教室を受講するようになりまし。この子達にも「川口漢語角」に参加して貰い、一日も早く日本社会に溶け込んでもらいたいと思います。

第三十四回

親子教室大使館訪問

入門幹事 林 芳男

二〇一九年七月三十日

(火)「川口親子教室中国大使館訪問」を行いました。今回で三十四回を迎える大使館訪問校は川口市立上青木南小学校に早くから決まりました。途中予定外の校長先生の交代もありまし。訪問日程、参加者募集と新任の清水校長先生に予定通り進めて頂きました。



科学技術館駐車場

ところが中国大使の交代もあり、新しい大使が赴任するまで、訪問日や当日のスケジュールなど決められませんでした。

その後、新大使も赴任して従来の大使館担当者が引

き続き担当することが決まり、今までのプログラムに沿って計画していただくこととなりホッとしました。



科学技術館説明

後は当日を待つばかりとなりました。



展示物に見とれて

当日、午前中に科学技術館を見学、昼食を済ました後、中国大使館へは午後訪問となります。大使館では付博二等書記官の出迎えを



おやつタイム

その後短編映画鑑賞、大使館への生徒達の質問と付博書記官の返答があり、次に中国を取材のクイズ大会で皆元気よく手を挙げて大いに盛り上がりました。



陽光小学児童

受け大使館内に入りました。進行は付博書記官が行い、始めに石永菁文化部参事官の挨拶、次に上青木南小学校・清水校長の挨拶で交流会は始まりました。

最後に、川口市日中友好協会加藤理事長の答礼の挨拶の後、全員大使館前で記念撮影を行い、帰路に着きました。帰りは子供たちの元気な声とは対照的に大人達は疲れてしまいました。生徒



校歌合唱

夏休みに入り、大使館職員の日中友好協会が、多くの中国に帰りましたが、残っている生徒たちとの交流を行いました。自己紹介で始まり互いに好きなアニメやゲーム等の質問が主となりました。そしてお待ちかねの中華の軽食タイムで皆お替りの列を作りました。その後、記念品贈呈を行った後、お礼に上青木南小学校の校歌を大きな声で合唱しました。

恒例の第二十回「中国映画無料鑑賞会」を九月二十九日(日)スキップシティ映像ミュージアム四階映像ホールで開催いたしました。上映作品は「洋妞到我家」(邦題「北京ファミリー」)と短編「草原の誘惑」です。今年是中国大使の交代がありスタートが遅れましたが、大使館から五本の作品を提示していただきました。

九月二十九日(日)
第二十回
中国映画無料鑑賞会
内野 繁子



大使館前で記念撮影

皆が今回の大使館訪問が少しでも心に残り、将来、友好の懸け橋に役立つてほしいと思いをしました。

そして選んだ作品は現代中国北京に住む平均的な家族を描いた作品「洋妞到我家」です。一人娘に過保護な母親は海外移住を目指し英語の教育も兼ねて娘のベビーシッターを雇いますが、そのベビーシッターが家庭内に嵐を巻き起こします。日本人にも共感する部分が多く今回の上映の決定としました。しかしスタートの遅れはそのまま映画会の宣伝活動の遅れとなり、来場者は昨年の半数という結



洋妞到我家

内容は認知症の老人介護を描いた作品や八十後の青春を早いテンポで描いた作品、過激なアクション映画が並び、ファミリー層を対象にした川口市日中の上映会には向かないため、新たに作品を探しました。

しかし、現代中国の作品の中にも今回のような日本人にも共感する作品もあるため、時間をかけて探すことがベターと感じました。来年はよく吟味して、日本人にも共感される良い作品をじっくりと選んでいきたいと思ひます。



映画会内野司会

果となりました。それと最近の中国映画事情ですがアニメやロマンス物語、コメディ映画、アクション映画等以前のチャン・イーモウ(張芸謀)、チェン・カイコー(陳凱歌)のような逆境の中でも頼もしく生きる人々を描く作品はほとんど作られなくなっているようです。大使館にある作品も上記のような作品が主になっているとのことです。



映画会業績展示

十月二十日(日)
第十八回
ボランティア見本市
林 芳男

十月二十日川口市第十八回ボランティア見本市に参加しました。今回で三回目の参加です。川口市の六十二以上のボランティア団体が、年に一度、一堂に会するイベントです。川口駅西口のリアパーク(西公園)に出展者テントが円形に並び景観は圧巻です。中央にステージがあり演劇や手話サークル、コーラスと様々な団体が出演します。私達川口市日本中国友好協会のブースはステージの裏側でステージの音楽の音や来場者の心配をしましたが、裏側のため音の心

配はいりませんでした。日中友好協会の看板があり、中国人の来場者が予想以上に多く「日本語教室」のパンフレットを配りました。



川口日中千客万来

例年四名ほどで対応していますが、今回は協会員五名、日本語教室受講生五名、合計十名の参加で、狭いブース内に入れないメンバーはブースの外でパンフレットを配りました。

始まってすぐに奥ノ木市長が慰問に来てくださり、日本語教室のメンバー一人の出身地を尋ねました。彼らは市長の訪問に中国ではあり得ないことと驚きながら喜んでいました。「あなたの名前を中国語で」コーナーは日本語教室のメンバーが交代で対応してく

れました。彼らは日本人の名前を見るとすぐに簡体字に変換、そしてピンインを記入します。

私達とは違い、電子辞書も使わずに次々と対応していききました。お陰で用意した記念品はあつという間になくなり、予定の三時前に終わることができました。私達は会場美化担当として、PM一時にゴミ袋を手に会場内を、日本語教室の劉さんと二人で手分けして回りました。

三十分おきに他のチームも回るため、ごみはほとんどありませんでした。日本語教室のメンバーも初めての体験で戸惑ったかと思いますが「あなたの名前を中国語で」コーナー等を体験して、とても喜んでくれました。

十月十七日～二十一日
中国語研修旅行 桂林・陽朔
旅行幹事 矢澤・吉田

今年度、当協会の中国研修旅行は桂林・陽朔です。加藤理事長をはじめ十一人で参加いたしました。今回私が楽しみにして

いたのは、
一 桂林の景色を見る
二 新幹線に乗る
三 地元の人と交流する
の三点です。

★桂林の景色

桂林の川下りには中国を代表する景色に挙げられています。

前回は万里の長城を観光して、スケールの大きさに感動しました。今回の桂林もすばらしかったです。



20元札の裏面

中国の二十元紙幣の裏にある場所で記念撮影。

船内では、青島から観光に来た姉妹とテーブルが一緒になりました。

お菓子をあげたら、落花生や変わった野菜をくれました。それをきっかけに会話が弾みました。約四時間の漓江船下り

は、水墨画のような風景の中を静かに進み、あつという間に終わってしまったというのが印象です。

★新幹線

中国の新幹線、駅がとにかく大きい。



高铁の広い駅・多い人

ホームがたくさんあり一人でいったら必ず迷います。乗り心地は日本の新幹線と同じく安全で快適でした。車内は比較的静か、最近環境やマナー等国を挙げて取り組んでいることが感じられます。



中国高铁



夜の実景ショー

自己紹介で日本のアニメが好きという学生が数名いて、中国の若者にも、日本のアニメーションは交流に一役買っていました。皆男女問わず好青年です。



師範大学生自己紹介

缶ビールを買いましたが、広州駅の商店で買うより車内の方が十元安かったです。
★地元の人との交流
今回は、広西省師範大学の日本語専攻の学生五人と交流会がありました。

帰りの車中、中国旅行が初めての同行者が「ニュース等で悪い印象を聞いていたが、自分が思っているより発展している中国があった。実際に今の中国を見られて良かった」と嬉しい感想を話してくれました。日本国内では、テレビの



少数民族と交流

中には家庭の事情で苦勞して学んでいる学生もいたので、思わず涙の参加者もいました。
❖ ❖ ❖
陽朔でのオプシオン観光で大型山水実景ショー「印象劉三姐」を見ました。私が中国で見たアトラクションの中で一番良かった……。ショーの演出者が後に、北京オリンピックの演出に抜擢されたというのが領けます。

芝園公民館文化祭に参加しました。
今回で第四回目となり

十一月九日(土)
芝園公民館文化祭
林 芳 男

実際、中国の大都市では高層ビルが至る所に立ち並び、道には多くの高級外車が目に見え、一方、苦勞して大学に通う生徒と実際に話をしたり、地元の人たちとの交流の中で我々も、もっと中国の良いところを積極的に伝えていかなくてはいけないと思いました。



桂林市

番組で中国の交通事故や悪いイメージの映像ばかり多く流されていて、偏った印象が残ります。

過去の展示では、初回、蘭州芸術院の子供たちの書道展示。
二回目は、山西省の写真を県日中友好協会からお借りし展示しました。
三回目は、川口市日中友

過去



川口日中展示

私たちのスペースは体育館に入っただけで目につく最高の場所を提供して頂きました。



実行委員長挨拶

ます。参加者は協会員八名日本語教室のメンバー六名の合計十四名と昨年に比べ大幅に増えました。



芝園太鼓

四十七年前の発足時から、昨年十月に行った桂林研修旅行での広西省師範大学日本語専攻生、五名との友好交流までの写真を掲示しました。



開会の辞

好協会の中国研修旅行の歴史を展示しました。
今回は、原点に戻り、川口市日中の友好交流の歴史を展示しました。

今回は、例年と比較して来場者の出足が鈍く心配しました。「あなたの名前を中国語で」コーナーを日本語教室のメンバーが担当します。私たちのコーナーは入ってすぐに目に入り、皆立ち止まって寄ってくれました。

日本語教室のメンバーたちも、中には日本の名字に四苦八苦する者もいましたが、参加した五人はとても手際よく対応してくれました。



文化祭フードコート

東京都日中友好協会青年委員会のメンバーが芝園団地を見学したいという依頼を受けて、自治会の事務局長にお願いして芝園団地についての説明と団地の見学会内をお願いしました。川口市日中のメンバー

も一緒に参加させて頂きました。自治会・事務局長の説明に皆感銘を受けていました。

団地の外の広場では恒例の元団地住民のバトミントン長城クラブのメンバーがジャージャー麵を作っていました。皆中国人です。その美味しさからあつと言う間に売り切れてしまいました。

「あなたの名前を中国語で」コーナーの景品のシャープペンシルやクリアファイルも無くなり、PM三時前ですが店仕舞いとなりました。



芝園団地文化祭

終了後は団地内の中華料理店で東京都日中友好青年委員会メンバーとの交流会を開きました。中国経験豊富な青年委員会のメンバ

「も芝園団地を体験後「中国にいると勘違いした」と驚いていました。この経験を生かして来年も他の地区協会との交流を企画したいと思います。」

十一月十日(日)

第四回

法人会祭り

SKIPふれあいフェス二〇一九

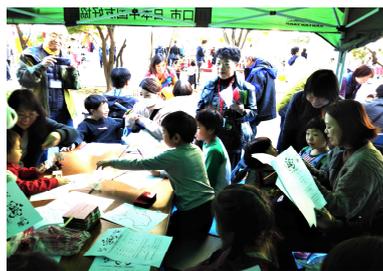
加藤 展裕

今回の法人会祭りはSKIP名物の吹き抜けの強い風も無く、穏やかな陽気の中で開催しました。場所は前年と同じで準備もスムーズに進みました。

協会の参加者十五名、

日本語教室のメンバー四名、李麗先生、毎年プレゼントを提供して頂いている埼玉県日中の江森氏の計二十一名の大所帯となりました。景品は「あなたの名前を中国語で」がシャープペンシル、「親子中国語教室」は江森さんの変わり屏風、別名。パタ。パタ。科学館と映像ミュージアムの間のプロムナードにテントを張り四十近くの食べ物店が並びます。川口市日中は当初から自前

のテントで参加しています。ステージでは近くの小学校の楽器の演奏やダンス、剣劇、物まね、バルーンと多彩です。午前中は出足が鈍く「親子中国語教室」の授業を心配しましたが、何とか始めることができました。



親子中国語教室

李麗先生の元気の良い声がテントの中に響き渡ります。僅か十五分の授業ですが、子供たちの声も小気味よく響き、テントの中が一気に活気づきます。午後には出足も良くなり「あなたの名前を中国語で」コーナーも六人のスタッフで対応するようになりました。「親子中国語教室」も子供たちにパタ。パタ。を実演して見せ参加を呼びかけました。パタ。パタと次々色が変わる

「変わり屏風」に子供たちは興味を持ちすぐに定員となりました。

「あなたの名前を中国語で」コーナーの来場者はお年寄りから小学生まで多彩です。座りながら昔の話に花が咲いたり、中国の話に夢中になったりと様々です。

今回他のイベントでも感じましたが、以前に比べ中国の人たちが多く立ち寄るようになりました。それだけ身近に中国人がいるということです。今後更に多くの中国人に「日本語教室」や「川口漢語角」を紹介して、幅広く日中友好交流を進めていこうと思います。

編集後記

東日本で起きた河川の相次ぐ氾濫に身の縮む思いでした。災害の少なかつた千葉県も停電、断水、食糧難に見舞われ、日本に安全な場所なしと実感しました。

川口市日中ではスタッフ、会員の努力で日中友好を着々と進めています。今年も楽しい企画と様々なイベントで盛りあげ、更なる発展を期待しています。